知立市歴史民俗資料館

年　報

令和４年度

目　次

資料館概要

沿革・施設

沿革 ・・・・・ 1

施設 ・・・・・ 1

資料館事業概要

展示活動

常設展示 ・・・・・ 2

季節展示 ・・・・・ 3

企画展示 ・・・・・ 4

ミニ企画展示 ・・・・・ 11

教育・普及活動

GW（ゴールデンウィーク）イベント ・・・・・ 12

義太夫お試し教室 ・・・・・ 12

資料館講座「はじめての古文書」 ・・・・・ 13

博物館実習 ・・・・・ 13

資料館講座「土器づくり」 ・・・・・ 14

市内小学校３年生の見学 ・・・・・ 15

資料館講座「どっぷりディープな家康ゆかりのお城めぐり」 ・・・・・ 16

収集・保存活動

寄贈資料 ・・・・・ 17

受領図書 ・・・・・ 17

利用状況

貸出・閲覧資料一覧 ・・・・・ 22

月別来館者数 ・・・・・ 22

文化財保護事業概要

文化財保護事業

文化財調査 ・・・・・ 23

文化財保護 ・・・・・ 23

文化財発掘事業

試掘・確認 ・・・・・ 24

市史編さん事業概要

教育・普及活動

市史だより刊行 ・・・・・ 25

歴史講演会・トークセッション「戦国の世と知立」 ・・・・・ 25

条例・規則

知立市歴史民俗資料館条例 ・・・・・ 26

知立市歴史民俗資料館管理規則 ・・・・・ 27

知立市文化芸術基本条例 ・・・・・ 29

研究報告

知立神社所蔵の茶釜について ・・・・・ 33

資料館概要

沿革・施設

沿革

知立市歴史民俗資料館は、昭和 53 年に開館した「知立市郷土資料館」を前身としています。

郷土資料館は知立中学校の西北（現広見 2 丁目 1 番地辺）の場所に、刈谷に移転した旧法務局を改造して建てられ、知立の歴史や民俗に関する資料を主に収集・展示していました。

その後、建物の老朽化や狭小さから新資料館建設の要望が高まり、昭和 62 年 10 月 22 日、市立図書館と併設する形で現在の歴史民俗資料館が開館しました。



資料館・図書館外観



資料館展示室入口

施設

南西向きの 2 階建てです。中央の正面玄関を入ると、ロビーのある共用スペースを挟んで右が図書館スペース、左が資料館スペースとなっています。また建物南側には緑豊かな新地公園（知立新地ドリームパーク）が広がり、市民の憩いの場となっています。

敷地面積　4,950 ㎡　　建築面積　658.11 ㎡　　延床面積　1,140.48 ㎡

1 階展示室 207.45 ㎡　　1 階収蔵庫 88.46 ㎡

2 階展示室 172.95 ㎡　　2 階収蔵庫 124.25 ㎡　　特別収蔵庫 21.90 ㎡

燻蒸室 9.67 ㎡　　整理作業室 58.73 ㎡

事務室 28.65 ㎡　　その他

鉄筋コンクリート造地上２階建一部塔屋

所 在 地　　〒472-0053　知立市南新地二丁目３番地３（TEL 0566-83-1133）

開館時間　　午前９時～午後５時

休 館 日　　毎週月曜日（祝日は開館）、年末年始（12 月 29 日～１月３日）、
館内整理日（毎月第４金曜日）、特別整理期間（年 10 日以内）

入 館 料　　無料

交通機関　　名古屋鉄道名古屋本線　知立駅下車　徒歩 10 分

資料館事業概要

展示活動

常設展示

＜１階＞　知立の歴史的な特色を紹介する 3 つのコーナーを設けています。

【知立神社と知立まつり】

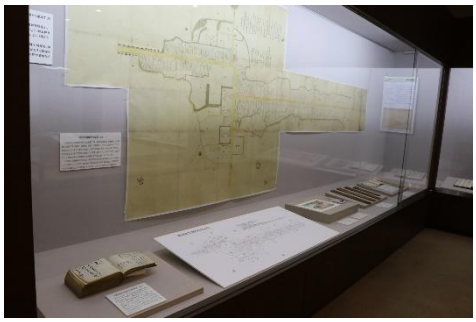
当地の地名「知立」を冠する知立神社とその祭礼「知立まつり」を紹介しています。

知立神社は式内社であり、またマムシ除けの霊験あらたかな神社として知られた神社です。毎年 5 月 2 日、3 日には同神社で「知立まつり」が行われます。知立まつりの本祭（隔年）に奉納される「知立の山車文楽とからくり」は、平成 2 年に国の重要無形民俗文化財に指定され、平成 28 年には全国 33 件の「山・鉾・屋台行事」の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。



ここでは知立神社・知立まつり・山車文楽とからくりに関わる資料を展示するほか、知立まつり（本祭）の 14 分間の映像を上映しています。

【池鯉鮒宿】知立には江戸時代、品川から数えて 39 番目の東海道の宿場「池鯉鮒宿」がありました。ここでは宿の様子を詳細に示す絵図や、本陣・問屋場などに関わる資料、広重が描いて知られた池鯉鮒の馬市をはじめとする池鯉鮒宿の浮世絵や近世の旅道具などを展示しています。また池鯉鮒宿のジオラマや旅籠を模したコーナーも設置し、当時の様子を再現しています。



【八橋と伊勢物語】

『伊勢物語』第九段で詠まれた「からころも きつつなれにし つましあれば はるばるきぬる たびをしぞおもふ」の歌とともに広く知られた名所“八橋”を紹介しています。



『伊勢物語』の版本や主人公とされる在原業平に関わる資料、八橋について記した中世～近世の紀行文、また近世になって八橋再興をこころみた方巌売茶翁に関係する資料などを展示しています。

なお、特別展・企画展の際は、1 階展示室の一部を会場とするため、常設展示はその間、撤収しています。

＜２階＞　当地の原始・古代・中世の出土資料を展示するほか、近代の農具やくらしの道具、戦時資料などを展示しています。また明治 2 年に当地で立藩した重原藩の大参事となり、廃藩後は自由民権運動で活躍した内藤魯一に関するコーナーも設置しています。










季節展示　＜五月人形＞

例年 4 月末～5 月末にかけて、五月節句飾りを展示しています。大正から昭和時代の五月人形や兜、土人形、こいのぼりなどを飾っています。今年度は図書館の展示コーナーを使い、五月飾りの展示とともに、令和 2 年度にナスもル知立様からご寄贈いただいた手作り段ボール甲冑を設置しました。段ボール甲冑は、合戦風景を背景にして甲冑と共に写真を撮っていただくコーナーとしました。




企画展示

よみがえる地下の知立展

7月23日 ～ 9月4日

□ 展示趣旨



知立市の遺跡や遺物を「復元」という視点から紹介する企画展を開催しました。復元画や復元された土器・レプリカ等を用いることで、遺跡や遺物に対する想像を膨らませ、知立市の遺跡により親しんでいただくことを目的としています。

復元画をテーマとする第1章「絵でよみがえる知立の姿」では、復元画に基づき、関連する遺跡の調査時の写真や出土品等を展示しました。第2章「よみがえる遺物たち」では、石膏により復元された土器やレプリカに加え、出土品の整理や実測等の発掘調査後の作業の様子も紹介しました。

□ 会場　1階展示室

□ 入場料　無料

□ 印刷物　チラシ5,000枚 、 ポスター170枚

□ 期間中の入館者数（会期日数）　2,448人（37日間）









□　展示資料リスト

第1章　絵でよみがえる知立の姿

●復元画「縄文時代の竪穴建物内でのくらし」

資料名	遺跡名
深鉢(2)	間瀬口遺跡B地区
深鉢土器片(7)	
鉢底部	
深鉢口縁部(2)	
深鉢上胴部	
磨製石斧	
石匙(2)	
スクレイパー	
石鏃(チャート/4)	
石鏃(黒曜石/2)	
石鏃(下呂石・雲母変岩)	
石皿(2)	万加田遺跡(豊田市)
敲石(2)	

●豊田市の関連遺物

深鉢	水汲遺跡(豊田市)
深鉢(2)	曽根遺跡(豊田市)
植物遺体(アカガシ/2)	寺部遺跡(豊田市)
植物遺体(クヌギ/3)	
植物遺体(アベマキ/5)	
植物遺体(トチノキ/2)	
植物遺体(オニグルミ/2)	
植物遺体(ドングリ/15)	西中神明社南遺跡

●竪穴建物の平面復元

無頸壺	天神遺跡B地区
細頸壺(2)	
広口壺(2)	
石錘	

●復元画「方形周溝墓の様相」

太頸壺(4)	間瀬口遺跡A地区
壺胴部	
細頸壺(3)	
広口壺(4)	
台付甕(脚台部/2)	
甕上半部	

●復元画「腰前遺跡集落」

伊勢型鍋	腰前遺跡
山茶碗(4)	
土師器皿(2)	
小皿(8)	
三筋壺	
甕(常滑焼)	
中国陶器(青磁碗/7)	
中国陶器(青磁皿底部)	
土師器鍋(2)	
土師器皿	
小皿(3)	
山茶碗(2)	
陶丸(4)	
加工円盤(5)	
鉄滓(10)	
ふいご(羽口/9)	

第2章　よみがえる遺物たち

●五輪塔と甕の復元

五輪塔(空風輪/2)	上井場取遺跡
五輪塔(火輪/2)	
五輪塔(水輪)	
五輪塔(地輪/2)	
甕	

●木製品の製作工程の復元

板材(3)	西中神明社南遺跡
広鍬(2)	
櫂(鋤)	
又鍬(2)	
鍬膝柄(2)	
打製石斧	
横斧(レプリカ/2)	―

●遺物整理の流れ

瓦(6)	知立古城
ブラシ、ゴムボウル、ヘラ、拓本	―

●実測の様子

手焙り形土器	小針遺跡
台付甕	
図面、実測道具(定規/2、真孤/2、キャリパー/2、リバイダー/2)	―

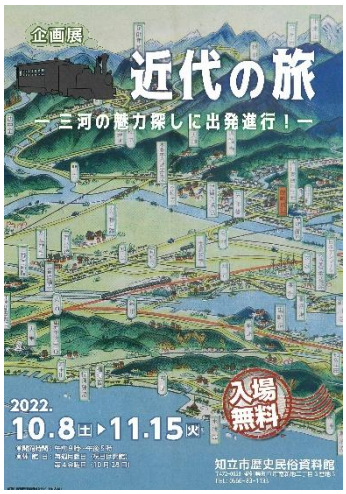
●土器の文様あれこれ

土器片(4)	間瀬口遺跡A地区
職員作成土器(3)	―
粘土板、文様をつける道具	―

企画展示

近代の旅　―三河の魅力探しに出発進行！―　10月8日 ～ 11月15日

□　展示趣旨



明治5年（1872）に日本で初めて鉄道が開業し、それ以降、各地に鉄道網が張り巡らされ、長距離の移動が身近なものとなりました。鉄道網の発達は人々の「旅行」にも影響を与え、大正時代から昭和時代初期にかけて観光ブームが到来します。また、鉄道会社などによって沿線案内パンフレットや観光案内パンフレットが作成されるとともに、鳥瞰図の制作も盛んになりました。

本企画展は、近年の新型コロナウイルス感染症の影響により遠方への旅行が敬遠されがちになっているなか、この地域の沿線案内パンフレットや観光案内パンフレット、そしてそこに美しく描かれた鳥瞰図などを展示し、身近な地域の魅力を再発見してもらうことを目的として開催しました。

□　会場　　1階展示室

□　入場料　　無料

□　印刷物　　チラシ5,000枚 、 ポスター170枚

□　期間中の入館者数（会期日数）　　1,995人（33日間）









□　展示資料リスト

Ⅰ 近世の旅

資料名	年代
通行手形（往来一札）	安政3年
東海道五十三次之内（行書版）　池鯉鮒	天保13年頃
東海道名所図会	寛政9年
浪花講定宿帳	江戸時代後期
道中独案内図	文化5年
写真パネル「東海道池鯉鮒宿宿並図」	17世紀後半頃
旅行用心集	文化7年
道中合羽	江戸～明治期
折りたたみ枕	江戸期
印籠	―
矢立	―
小田原提灯	江戸期
弁当行李	江戸期
煙草入れ	大正期

Ⅱ 鉄道開業と旅

資料名	年代
汽車汽船旅行案内図	明治41年
三河鉄道営業案内	大正3年
鉄道旅行案内	大正5年
ポケット旅行案内　第四十八号	大正8年
パンフレット「渋温泉案内」	大正14年
パンフレット「塩原」	大正13年
パンフレット「四国一中国　鉄道連絡船」	昭和9年頃
パンフレット「京阪電車御案内」	大正2年
パンフレット「天下之絶勝日本ライン名所図絵」	大正12年
中折帽子	―
マント（二重まわし）	―
写真パネル「旅装モデル」	―
旅行鞄	昭和期
パンフレット「関西聖地巡拝」	昭和15年
切符（大阪より東海道線経由刈谷ゆき）	
土瓶	―
弁当包み（再現）	―
旅と名所　観光改題第廿二号	昭和3年
日本鳥瞰近畿東海大図絵	昭和2年

Ⅲ 描かれた三河の風景

資料名	年代
パンフレット「三河鉄道名勝図絵」	大正13年
パンフレット「革命的発展　電化の三河鉄道案内」	大正13年
パンフレット「西尾鉄道案内」	大正11年
パンフレット「東海名所蒲郡　常磐館案内」	大正13年頃
パンフレット「愛知県」	昭和9年
パンフレット「愛知県」	昭和12年
絵はがき「春日神社」（包紙「三河高浜絵はがき」）	―
絵はがき「高浜町主要物産」（包紙「三河高浜絵はがき」）	―
絵はがき「三河・高浜港」（包紙「三河高浜絵はがき」）	―
絵はがき「明治用水々源　堰堤」	―
絵はがき「愛知県立農林学校農場全景」	明治末頃
絵はがき「郷社　市原神社」	―
絵はがき「岡崎公園」	―
絵はがき「岡崎　伊賀八幡宮」	―
絵はがき「大樹寺　多宝塔」	―
パンフレット「愛知電気鉄道沿線案内」	大正12年
パンフレット「愛電沿線案内」	昭和2～3年
絵はがき「知立神社全景」	明治末頃
絵はがき「延喜式内県社　知立神社」	―
絵はがき「三河三弘法　遍正院」	―
絵はがき「三河三弘法一番遍照院　境内全景」	―
絵はがき「三河三弘法一番遍照院　奥ノ院」	―
絵はがき「三河三弘法一番遍照院　御内陣」	―
絵はがき「三河八ツ橋　無量壽寺」	―
絵はがき「三河八橋杜若名所無量壽寺庫裡及鐘楼」	―

絵はがき「三河八橋杜若名所近古之風景」	―
封緘絵はがき「三河大はま町」	―
封緘絵はがき「三河西尾町」	昭和14年頃
絵はがき「大浜港の朝霧」（包紙「三河大はま」）	―
絵はがき「新須磨の夜景（海水浴場）」（包紙「三河大はま」）	―
絵はがき「玉津浦海水浴場」（包紙「三河大はま」）	―
絵はがき「西尾町役場の景観」（包紙「西尾絵はがき　第壱集」）	昭和14年頃
絵はがき「西尾茶園緑の清境」（包紙「西尾絵はがき　第壱集」）	昭和14年頃
絵はがき「実相寺釈迦堂の静寂」（包紙「西尾絵はがき　第壱集」）	昭和14年頃
絵はがき「伊文神社清雪の朝」（包紙「西尾絵はがき　第壱集」）	昭和14年頃
パンフレット「産業の安城」	昭和15年
パンフレット「岡崎市とその附近」	昭和期
パンフレット「産業のころも」	昭和15年
パンフレット「知立　CHI-RYŪ」	昭和48年頃
パンフレット「刈谷　KARIYA」	昭和期
パンフレット「岡崎　OKAZAKI」	昭和期

Ⅳ 旅の想い出

資料名	年代
旅先での記念写真（和歌の浦蓬莱岩）	明治～昭和初期
松江を中心とせる出雲名所図絵	大正15年
宝塚・旧温泉御案内	―
高野山図絵	―
雪中登山 耐寒旅行 スキー 南海電車	―
紀三井寺 新和歌浦 南海電車	―
香嵐渓絵葉書	大正～昭和期
切符7枚 (国鉄4枚、三河鉄道3枚)	―
駅弁の掛紙	大正～昭和期
御朱印帳	昭和5年～7年
スタンプ帳	昭和14年

企画展示

はやりのおひなさま展

2 月 4 日 ～ 3 月 26 日

□　展示趣旨



3 月 3 日のひなまつりに飾られる雛人形には、現在でも親王飾りや段飾り、ケース飾りなどの種類があるように、時代や地域ごとでも特色がみられます。

本企画展では、明治から昭和期の親王飾り、源氏枠飾り、御殿飾りといった当館所蔵の雛人形を展示するとともに、パネル展示によってその他の様々な雛人形について紹介し、雛人形の流行をたどりました。

また、展示室内にて「みんなで作ろう！おこしものマップ」と題して色別シールで回答するアンケートを設置し、おこしものの分布をみる企画を開催しました。

□　会場　　1 階展示室

□　入場料　　無料

□　印刷物　　チラシ 5,000 枚 、 ポスター170 枚

□　期間中の入館者数（会期日数）　　6,578 人（33 日間）

□　関連イベント

ひなまつりスタンプ・シールラリー（2 月 4 日～3 月 5 日）

愛知県内の 32 館のおひなさま展示館をめぐる「ひなまつりスタンプ・シールラリー」に参加しました。2 年ぶりの開催となったこともあり、期間中は多くの来場者でにぎわいました。

記念品には、3 館賞に「おひなさまマグネットマーカー」、6 館賞に「つまみ細工」をご用意しました。









ロ　展示資料リスト

資料名	年代
おもちゃ絵	昭和17年
親王飾り	昭和3年
段飾り	平成13年
貝雛	平成期
陶器製人形	平成期

●親王飾り

親王飾り	明治期
親王飾り	大正12年
親王飾り	昭和2年

●源氏枠飾り

源氏枠飾り	大正12年
源氏枠飾り	大正期

●土人形

土人形(女雛)	昭和期
土人形(男雛)	昭和期
土人形(女雛)	ー
土人形(男雛)	ー
土人形(女雛)	ー
土人形(男雛)	ー

●御殿飾り

御殿飾り(紫宸殿)	ー
御殿飾り(東照宮)	昭和24年

●段飾り

7段飾り	昭和30年頃
7段飾り	昭和前期

●雛人形・雛飾り

雛人形・5人囃子	明治初期か
裸人形	昭和36年
市松人形2体	ー
市松人形	昭和15年頃
天神人形	明治期
土人形(犬)	ー
土人形(弁財天)	ー
土人形(羽子板を持つ童女)	ー
土人形(恵比寿天)	ー
土人形(大黒天)	ー
ケース入り人形「道成寺」	ー
高砂人形	大正～昭和期か
変わり雛「舌切り雀」	大正～昭和期か
変わり雛「汐汲み人形」	昭和10～12年頃か
変わり雛「胡蝶の舞」	昭和10～12年頃か
おこしものの型	ー

ミニ企画展示

常設展示や 1 階展示室で開催する企画展示のほかに、時事に合わせて、また展示資料の少ない分野の資料を紹介する目的で、小スペースを使ったミニ展示も行っています。

＜2 階民家＞



2 階展示室の中央にある、民家の一室をイメージした展示スペースです。

昨年に引き続き、「昔の生活から SDGs を考えよう！」を副題として「竹を使った生活の道具」を展示しました。台所・食事の道具、掃除・洗濯の道具、住まいの道具など、竹でできた道具を使用目的ごとに分けて並べました。

＜ロビー展示＞

図書館との共用スペースであるロビーで、覗きケース 2 台を使ってミニ展示をしています。

4 月 29 日から 1 か月間は、図書館展示コーナーにて開催した五月飾りの展示と関連し、「なつかしのおもちゃ」と題してミニ展示を開催しました。ブリキ製のおもちゃを始め、グリコのおまけ等を展示しました。





また、8 月の終戦記念日前後には、同月上旬に行った博物館実習の際に実習生に企画してもらったミニ展示「兵隊と家族の対話展」を開催しました。



教育・普及活動

GW（ゴールデンウィーク）イベント

＜クイズラリー＞



- □ **日時**　4 月 29 日（金・祝）～5 月 5 日（木・祝）開館中随時
- □ **場所**　1・2 階展示室
- □ **内容**　常設展示を回りながら、初級編（10 問）や上級編（9 問）のクイズに答え、楽しく知立の歴史を学ぶクイズラリーを開催しました。
- □ **参加者**　61 人

義太夫お試し教室

国指定重要無形民俗文化財でありユネスコ無形文化遺産にも登録されている「知立の山車文楽とからくり」の後継者育成事業です。上演の際、三味線にあわせて人形浄瑠璃芝居を語る役目を太夫といい、その太夫と三味線の初心者向けの稽古を行うものです。平成 29 年度から実施しています。

- □ **講師**　知立市義太夫会等
- □ **日程**　令和 4 年 5 月から令和 5 年 3 月の毎月第 4 土曜日　午後 6 時～8 時
- □ **場所**　知立市中央公民館ほか
- □ **受講者**　18 人





- □ **成果発表会**

11 月 13 日（日）、パティオ池鯉鮒の花しょうぶホールで開催された「秋の山車文楽上演」の中で、教室受講生も発表を兼ねて「傾城阿波の鳴戸　順礼歌の段」を、知立山車文楽保存会本町人形連の方々とともに上演しました。



資料館講座「はじめての古文書」

令和元年度より 3 年にわたって開催していた「はじめての古文書」「やさしい古文書」「ステップアップ古文書」の一連の古文書講座が完結し、今年度は再び「はじめての古文書」として初心者向けの講座を実施しました。古文書の読み方の基礎を中心に、江戸時代の歴史や文化について学んでいただくことを目的としています。





- **講師**　藤井智鶴氏
- **日程**　令和 4 年 6 月から令和 5 年 2 月（8 月を除く）
  毎月第 2 日曜日　午後 1 時 30 分～3 時
  （一部変更あり）
- **場所**　知立市図書館 2 階　視聴覚室
- **内容**　使用資料
  教訓女今川、御家書札大成
  内藤家文書（当館寄託資料）
- **受講者**　17 人

博物館実習

原則 1 大学につき 1 人という条件で、大学から要請のあった学生を受け入れ、実務実習を行っています。

- **期間**　令和 4 年 8 月 2 日（火）～ 8 月 6 日（土）　9:30～16:00
- **受入学生**　三重大学人文学部文化学科　1 人
- **日程と内容**

日にち	実習内容
8／2（火）	オリエンテーション、市内文化財見学、館内概要説明・見学
8／3（水）	埋蔵文化財実習
8／4（木）	展示実習 1 、資料取り扱い実習
8／5（金）	資料撮影実習、土器づくり実習
8／6（土）	展示実習 2 、反省会



埋蔵文化財実習では、市内で発掘され当館で保存している木製品の洗浄と保存液交換、土器の拓本などの実習を行いました。

展示実習では、資料館所蔵の資料を用いて戦争に関するミニ展示を企画し、ロビーにて展示を行いました。

土器づくり実習は、教育・普及活動として、史跡の活用を目的に開催されているイベントの開催方法等を学びながら実際に土器を作りました。

資料撮影実習は、収蔵品の撮影を行いました。

歴史民俗資料館講座「土器づくり」

ロ　日時・場所

第１回　土器づくり　５月 22 日（日）午後１時 30 分～4 時
　　土器焼き　　６月 19 日（日）午前 10 時～正午

第２回　土器づくり　10 月 30 日（日）午後１時 30 分～4 時
　　土器焼き　　11 月 27 日（日）午前 10 時～
　　※強風のため弓矢体験と火起こし体験のみ。土器は後日焼成した。

場所　　土器づくり　知立市図書館２階　視聴覚室
　　土器焼き　　荒新切遺跡

ロ　内容





知立市指定の史跡「荒新切遺跡」に親しんでいただく目的で小学４年生以上を対象に行っている講座です。野焼き用の粘土を使い、ひも状にして輪積みする方法を基本として、当館所蔵の土器を見本に制作していただきました。

焼成の際は、木の土台の上に土器を並べ、上部に木組みを作った後、小さい木切れや落ち葉などをかけて燃やし、自然鎮火するまで焼きました。その間、遺跡説明や、舞ぎり式の火起こし体験・弓矢体験も行いました。

ロ　参加者　定員 12 名

第１回　小学５年生２名、小学６年生１名、中学１年生１名、中学２年生２名、大人６名

第２回　小学４年生１名、５年生１名、６年生１名、大人８名(1 名欠席)

※新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度も引き続き定員 16 人から 12 人に変更して開催しました。







市内小学校３年生の見学

社会科「昔のくらし」の学習の一環として、毎年秋～冬に市内の小学３年生が昔のくらしの道具について学びに来館します。令和４年度は市内７校の内、３校の来館がありました。昔の道具のほか、「市の様子と人々の暮らしの移り変わり」についても学びました。

密になることを避けるため、１階と２階に分かれて見学しました。１階ではパネルを用いて知立市域における市街地化の変遷について説明を行いました。２階では、クイズを出しながら昔の道具について説明しました。展示説明はそれぞれ 15 分程度とし、残りは自由に見学しながら職員に質問する時間としました。

見 学 日	学 校 名	来館児童数
１月２０日（金）	知立西小学校	９３人
２月２１日（火）	知立小学校	１４７人
３月　１日（水）	知立南小学校	１２２人









歴史民俗資料館講座「どっぷりディープな家康ゆかりのお城めぐり」

令和 5 年 1 月に放送開始した大河ドラマ「どうする家康」にちなみ、家康ゆかりの戦国時代の城跡をめぐる見学会を開催しました。予想を上回る多くの反響をいただき、各回定員 15 人のところ 80 人を超える方々にご応募いただきました。

当日は新説もご紹介しながら城郭遺構を見学し、初めてのイベントではありましたが、参加者の皆さまからも大変ご好評いただく内容となりました。

- □ **講師**　中川貴皓（当館学芸員）
- □ **日程**　①令和 5 年 3 月 4 日（土）　②3 月 11 日（土）
- □ **場所**　①松平氏館・松平城（国指定史跡、豊田市松平町）
  ②古宮城（市指定史跡、新城市作手清岳字宮山）
- □ **内容**
- □ **受講者**　①15 人（40 代 1 人、50 代 1 人、60 代以上 13 人）
  ②14 人（10 代 1 人、40 代 2 人、50 代 3 人、60 代以上 8 人）※1 人欠席

＜松平氏館・松平城＞





＜古宮城＞





収集・保存活動

寄贈資料

当館の資料の多くは、市民の方々より寄贈いただいたものです。

令和４年度のご寄贈は以下の通りです。ここに記して感謝申し上げます。

資　料　名	時代
知立町消防集合写真　2点	昭和期
「公爵一条実孝閣下参拝記念樹」前での集合写真　1点	大正～昭和期
岡田泉氏イラスト原画　28点	平成
石鏃　53点	―
歌川広重「東海道五十三次之内池鯉鮒　首夏馬市」1点	江戸後期

受領図書

寄贈者（敬称略）	書名
あいち朝日遺跡ミュージアム	あいち朝日遺跡ミュージアム年報1～２／あいち朝日遺跡ミュージアム研究紀要 第1～２号／企画展「北陸の弥生文化」／朝日遺跡だより vol.3～7
愛知学院大学文学部	愛知学院大学考古学発掘調査報告33 山形県南陽市北町遺跡ー2018・2019年度の発掘調査概要報告書ー／愛知学院大学考古学発掘調査報告34 愛知県瀬戸市広手C3 窯跡 第1・2次発掘調査概要報告書／愛知学院大学考古学発掘調査報告35 ／愛知学院大学考古学発掘調査報告36
愛知県	あいち文化芸術振興計画2027
愛知県公文書館	愛知県公文書館だより 第27号
愛知県生涯学習推進センター	まなびぃあいち 第77～78号
愛知県政策企画局	あいちのトビラ2023
愛知県総務局	あいち 財政の概要
愛知県陶磁美術館	愛知県陶磁美術館所蔵品図録Ⅳ／愛知県陶磁美術館館報 第29号
愛知県埋蔵文化財センター	愛知県埋蔵文化財センター年報 令和4年度／愛知県埋蔵文化財センター研究紀要 第23号／愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第217集 石原遺跡／愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第219集 マサノ沢遺跡／愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第220集 一色城跡／愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第221集 胡桃窪遺跡 大名倉丸山遺跡 添沢遺跡／愛知県埋蔵文化財 試掘・確認調査報告書ー令和3年度ー／愛知県埋蔵文化財試掘・確認調査報告書―令和2年度―
愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所	文化財保存修復研究所年報 令和2･3年度 第4号
愛知県立大学中世史研究会	2022(令和4年)延命寺大般若経調査報告書
愛知児童・青少年舞台芸術協会	愛児協ニュース 2022年10月号／愛児協ニュース 2023年4月号
愛知大学	博物館学芸員課程年報 第27号 2021年度版
愛知大学綜合郷土研究所	愛知大学綜合郷土研究所所蔵文書目録５ー三河国八名郡田中新田松坂家文書⑴ー／愛知大学綜合郷土研究所所蔵文書目録６ー三河国八名郡田中新田松坂家文書⑵ー／愛知大学綜合郷土研究所所蔵文書目録７ー三河国八名郡田中新田松坂家文書⑶ー／愛知大学綜合郷土研究所紀要 第68輯／愛知大学綜合郷土研究所ブックレット32 正徳・享保の三河吉田藩 松平信祝とその時代
あいち山車まつり日本一協議会事務局長	あっとおどろく！いってみようちいきの山車まつり
熱田神宮宝物館	宝物館だより No.246～252／特別展「美術品で初詣～熱田で諸社へも初詣～」
新居関所資料館	新居関所資料館 旅籠紀伊国屋資料館 年報令和2・3年度
安城市教育委員会	安城市埋蔵文化財発掘調査報告書 第48集 安城市西鹿乗地区の遺跡Ⅱ 福地遺跡／安城市埋蔵文化財発掘調査報告書 第49集 平成14～17年度市内遺跡調査報告 寺下貝塚Ⅱ 五反田遺跡 山ノ寺遺跡
安城市歴史博物館	文字書きからくり人形調査報告書／安城市歴史博物館年報第31号／安城市歴史博物館研究紀要26号／れきしみちNo.124～127／企画展「安城太郎満70歳ー安城市のあゆみー」／企画展「養生から健康へ」／企画展「勉強っておもしろい？」／特別展「家康と一向一揆」

寄贈者（敬称略）	書名
飯田市教育委員会	史跡飯田古墳群保存活用計画／安宅遺跡／飯田城城跡／史跡恒川官衙遺跡 恒川遺跡群／下の原A遺跡／西浦遺跡／下の原A遺跡 株式会社中村の事務所及び倉庫建設に先立つ埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書／座光寺原遺跡 座光寺スマートIC接続道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書／平成30年度～令和2年度 市内遺跡緊急発掘調査報告書／飯田古墳群 範囲確認調査報告書ー令和元～3年度ー
一宮市博物館	一宮市博物館だより №66
一般財団法人地域創造	地域創造レター No.323～329、331、334／地域創造 第48号／地域と文化芸術をつなげるコーディネーターインタビューによる事例調査報告書 変化する地域と越境する文化の役割
一般財団法人ちりゅう芸術創造協会	人形浄瑠璃おさき玉城恋の八橋 全三段 床本
一般財団法人名古屋城振興協会	名古屋城振興協会所蔵作品集 火縄銃
稲沢市教育委員会	祖父江支所・平和支所地区 近世村絵図 解説図
伊那市教育委員会	長野県伊那市老松場古墳群第1～4次調査の概要報告
犬山市教育委員会	犬山城跡第5次発掘調査報告書／犬山城跡第6・7次発掘調査報告書／史跡東之宮古墳整備報告書
犬山城白帝文庫歴史文化館	犬山城白帝文庫歴史文化館だより vol.19～20
茨城キリスト教大学	2022年度茨城キリスト教大学シンポジウム ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の保存・継承ー学生が見て聞いた「とやまのまつり」ー報告書／令和4(2022)年度 全国山・鉾・屋台保存連合 アンケート調査
岩倉市教育委員会	下新田遺跡
馬の博物館	研究紀要 第23号／秋季特別展「江戸狩野派と馬」
大口町教育委員会	白木遺跡
大口町歴史民俗資料館	大口町歴史民俗資料館年報24／大口町歴史民俗資料館研究紀要 XIX
大府市歴史民俗資料館	大府市歴史民俗資料館年報32～33／石丸遺跡Ⅰー宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告ー
岡崎市	第2次岡崎市文化振興推進計画（改訂版） 本編／第2次岡崎市文化振興推進計画（改訂版） 概要版
岡崎市美術館	岡崎市史料叢書 岡崎町方文書
岡崎市美術博物館	ARCADIA 90～93／岡崎市美術博物館研究紀要 第10号／収蔵品図録 名取春仙
各務原市歴史民俗資料館	かかみがはら百科 +プラス No.2／かかみがはら百科 No.3
春日井教育委員会	春日井市発掘調査報告書 第18集 大垣戸狐塚古墳／春日井市発掘調査報告書 第19集 高座山第1号墳／春日井市発掘調査報告書 第20集 神領第1号墳／令和3年度市内遺跡調査概要報告書／高蔵寺古墳群・高座山古墳群／郷土誌かすがい 第81号
春日井市道風記念館	道風記念館だより 第63～66号
葛飾区教育委員会	葛飾区埋蔵文化財調査報告・年報
神奈川大学日本常民文化研究所	民具マンスリー 第55巻1～12号／神奈川大学日本常民文化研究所論集39 歴史と民俗
蟹江町教育委員会	蟹江町歴史民俗資料館年報 第43冊
株式会社クマヒラ	抜萃のつづり その82
刈谷市	中手山貝塚発掘調査報告書
刈谷市郷土文化研究会	かりや 第43号
刈谷市歴史博物館	刈谷市歴史博物館年報 第3号／刈谷市歴史博物館研究紀要 第2号／ 刈谷市歴史博物館ニュースVol.10～12／企画展「伊勢物語とかきつばた」／企画展「深溝松平家展ー家忠・忠利・忠房と刈谷ー」／企画展「ＴＳＵＮＡＧＵ甦るモノたち」をもうちょっと知るためのガイド／井ヶ谷古窯跡群分布調査報告書
岐阜県博物館	岐阜県博物館報 第45号／岐阜県博物館調査報告 第42号／特別展「発見！いにしえの岐阜ー弥生・古墳・古代ー」／企画展「骨のあるやつ(改訂版)」
岐阜関ヶ原古戦場記念館	企画展「島津家の関ヶ原」／令和3年度岐阜関ヶ原古戦場記念館年報 第2号
行田市郷土博物館	行田市郷土博物館報 第21号／第32回テーマ展「縄文・弥生の足あと」／企画展「天正十八年～関東の戦国から近世～」
京都文化博物館	京都府京都文化博物館研究紀要 朱雀第34集
草津市教育委員会	草津市文化財調査報告書131 草津宿場町遺跡発掘調査報告書(令和2年度)／草津市文化財調査報告書135 黒土遺跡発掘調査報告書(令和2年度調査)／草津市文化財調査報告書137 黒土遺跡発掘調査報告書／草津市文化財調査報告書141 中畑遺跡発掘調査報告書(令和3年度調査)／草津市文化財調査報告書142 矢倉口遺跡発掘調査報告書(令和3年度調査)／草津市文化財調査報告書143 宮西遺跡発掘調査報告書

寄贈者（敬称略）	書名
草津市草津宿街道交流館	草津宿本陣歴史資料調査 調査報告書(上・データCD)／草津宿本陣歴史資料調査 調査報告書(下)／草津宿日和 14～15号
桑名市博物館	企画展「板谷波山と香取秀真」
公益財団法人愛銀教育文化財団	Ayuchi No.92～94
公益財団法人土岐市文化振興事業団	史跡乙塚古墳附段尻巻古墳 第7～９次発掘調査報告書／石田窯跡発掘調査報告書
公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団	財団30年の歩み
公益財団法人栗東市スポーツ協会	2020(令和3)年度年報／栗東市文化財調査報告書第171冊 高野遺跡発掘調査報告書 令和2年度１次調査／栗東市文化財調査報告書第178冊 手原遺跡発掘調査報告書 令和2年度1次調査／栗東市文化財調査報告書第179冊 小柿遺跡発掘調査報告書 令和2年度1次調査／栗東市文化財調査報告書第185冊 高野遺跡発掘調査報告書 令和3年度1次調査／栗東市文化財調査報告書第187冊 小柿遺跡発掘調査報告書 令和3年度1次調査／栗東市文化財調査報告書第197冊 手原遺跡／はっくつ2021／栗東市文化遺産２ 横穴式石室と石棺
公益社団法人日本文化財保護協会	令和4年度埋蔵文化財調査要覧／紀要 第6号／飛天 令和4年度会報
皇學館大学	皇學館大学研究開発推進センター年報 第8号／皇學館大学研究開発推進センター紀要 第8号
高知県立歴史民俗資料館	岡豊風日 第115～119号／高知県立歴史民俗資料館開館30周年記念誌
江南市歴史民俗資料館	江南市歴史民俗資料館年報 令和3年度
国際芸術祭「あいち」組織委員会	ARTS CHALLENGE 2022
国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館博物館研究報告書 第233～235、237集／令和4(2022)年度国立歴史民俗博物館要覧
小牧市教育委員会	民具が語る～小牧・昭和期のくらし～／天保十年 藩主御遺体御通行関連史料集ー尾張藩十一代藩主斉温ー／市内遺跡発掘調査報告書（26）
斎宮歴史博物館	史跡斎宮跡 令和2年度発掘調査概報／斎宮跡発掘調査報告書Ⅳ 西加座南区画の調査 遺構写真図版編
埼玉県立川の博物館	かわはく No.72～74
至学館大学コミュニティ研究所	「山・鉾・屋台行事」ユネスコ無形文化遺産登録記念事業 祭りシンポジウム
宍粟市教育委員会	千種町内製鉄関連遺跡分布調査報告Ⅰ～Ⅱ
枝下用水史料室	続・枝下用水日記 No.8～10／枝下旧用水路遺構めぐり／枝下用水水利組合文書『水野技師水路調査目録、新設水準基標、枝下用水調査及設計、仝上水路改修予算』明治39年解題・翻刻・影印
真宗大谷派岡崎教務所	れきし、再発見。岡崎教区の法宝物Ⅴ
鈴鹿市教育委員会	鈴鹿市考古博物館年報 第23号／伊勢国分寺跡史跡指定100周年記念特別展「国分寺」
諏訪市教育委員会	諏訪市埋蔵文化財調査報告書 第83集 市内遺跡発掘調査報告書(令和3年度)ー長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書ー
諏訪市博物館	特別展「諏訪信仰と御柱」
瀬戸蔵ミュージアム	企画展「本業敷瓦ー和製タイルの先駆ー」／企画展「白雲陶器 純白軽量なる新陶器」
高岡市教育委員会	高岡市埋蔵文化財調査概報 第82冊 富山県高岡市 市内遺跡調査概報31
多治見市教育委員会	多治見市文化財保護センター研究紀要 第16号
田原市教育委員会	史跡百々陶器窯跡、大アラコ古窯跡、伊良湖東大寺瓦窯跡保存活用計画
田原市博物館	巌山会報 第47～48号／企画展「日本ボタニカルアートの巨星 太田洋愛展」／田原市博物館研究紀要 第11号
玉川文化財研究所	藤沢市北部第二（三地区）土地区画整理事業区域内遺跡群発掘調査報告書
中京大学	中京大学文学会論叢 第9号
知立市文化協会	ちりふ文化 第170～171号
津市教育委員会	津市文化財年報16－令和2年度ー
東海国立大学機構	東海国立大学機構 大学文書資料室ニュース 第39号
東海市教育委員会	嚶鳴館遺稿 注釈 諸藩江戸編／注釈 山窓閑話／愛知県東海市 太佐山高射砲陣地跡確認調査報告1・２
東京都江戸東京博物館	東京都江戸東京博物館紀要 第13号／江戸東京博物館NEWS Vol.116～117
徳川美術館	葵 No.122～126
とこなめ陶の森	とこなめ陶の森資料館常設展示図録

寄贈者（敬称略）	書名
富加町教育委員会	マンガふるさとの偉人 斉藤新五利治
富山県埋蔵文化財センター	埋文やまと Vol.155～160／特別展「金属から見る富山の歴史」
富山市教育委員会	東平遺跡 第43地区 富士市埋蔵文化財調査報告書 72集／須津 千人塚古墳 富山埋蔵文化財調査報告 第74集
豊川市教育委員会	白鳥遺跡（三河国府跡）発掘調査報告書ー第14次～第16次・第18次調査ー
豊川市桜ヶ丘ミュージアム	豊川市桜ヶ丘ミュージアム年報 令和3年度／企画展「村絵図へのいざない」
豊田市郷土資料館	豊田市郷土資料館だより No.113～114／こどもしりょうかんだより Vol.46
豊田市近代の産業とくらし発見館	発見館のあゆみ
豊田市文化財課市史編さん室	新修豊田市史だより No.30～31
豊田市民芸館	豊田市民芸館だより 第33号
トヨタ博物館	トヨタ博物館年報 2021
豊橋市教育委員会	豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第150集 下五井館址／豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第154集 吉田城址(ⅩⅦ)／豊橋市埋蔵文化財調査報告書 第156集 市内埋蔵文財発掘調査Ⅳー平成26～28年度ー／豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告書 第157集 市内遺跡発掘調査ー令和元年度ー
豊橋市美術博物館	風伯 Vol.112～113
豊山町教育委員会	豊山町誌 町制施行50年のあゆみ
中根風土記編集委員会	中根郷土誌
長野県伊那郡箕輪町教育委員会	円仏遺跡
名古屋市博物館	名古屋市博物館だより 233～235号
名古屋市美術館	アートペーパー 119～121号
名古屋市蓬左文庫	蓬左 103～104号
奈良大学文学部文化財学科	文化財学報 第四十集 関根俊一先生退職記念論集
南山大学	明治大学博物館＋南山大学人類学博物館合同シンポジウム報告書 2019-2020
南山大学人類学博物館	南山大学人類学博物館紀要 第41号
西尾市岩瀬文庫	岩瀬文庫だより No.72～75／特別展「三河大浜騒動150年～近代化の光と影～」／「愛知県美術館・愛知県陶磁美術館 移動美術館2022 もじもえもじも」／企画展「古城ー失われた城の記録ー」
西尾市教育委員会	新編西尾市史研究 第8～9号／新編西尾市史通史編１原始・古代・中世
西三河野生生物研究会	三河生物 西三河野生生物研究会会報 vol.15
野田史料館	野田史料館報 163～165号
白山市立松任中川一政記念美術館	獨行道 第31号
浜松市地域遺産センター	令和2年度 浜松市文化財年報／浜松城跡43次調査の概要／石ノ塔古墳／浜松城跡16／浜松の文化財5／恒武西宮遺跡７
浜松市博物館	浜松市博物館報 31、34／特別展「三方ヶ原の戦いと家康伝承」
半田市立博物館	半田市立博物館 年報・紀要 令和3年度
東浦郷土資料館	東浦郷土資料館調査報告書第16集 上鰻池古窯群発掘調査報告書
彦根城博物館	彦根城博物館だより 第137～140号
日立郷土博物館	市民と博物館 139～142／日立市文化財回廊ガイドマップ／よくわかるかんぶり穴横穴墓群
平塚市教育委員会	平塚市試掘・確認調査報告書4
風媒社	三河の街道をゆく
藤沢市教育委員会	南鍛冶山遺跡発掘調査報告書 第17巻 道状遺構・溝状遺構／藤沢市埋蔵文化財調査報告 第9集 神奈川県藤沢市 西富西原遺跡第3・4・6次調査 発掘報告書
藤沢市生涯学習部郷土歴史課	藤沢市文化財調査報告書 第57集
富士市教育委員会	富士市内発掘調査報告書ー令和2年度ー 富士市埋蔵文化財調査報告 第73集
古橋懐古館	古橋懐古館だより 12～13号
碧南海浜水族館	碧南海浜水族館年報 第35号

寄贈者（敬称略）	書名
放生津八幡宮曳山・築山保存会	放生津八幡宮曳山・築山行事
鳳来寺山自然科学博物館	鳳来寺山自然科学博物館 館報51号
町田市立自由民権資料館	町田市立自由民権資料館紀要 自由民権 35号／石阪昌孝の生涯
三重県総合博物館	みえんしす 36～40号／資料叢書 No.8／研究紀要 No.8／企画展「集まれ！三重のクジラとイルカたち」／企画展「三重の円空」／三重県総合博物館年報 2021 通巻8号
三重県埋蔵文化財センター	東村城跡(第3次)・覚正垣内遺跡発掘調査報告ーいなべ市北勢町ー／一般国道42号熊野道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書／三重県埋蔵文化財調査報告416 神田遺跡(第2次)発掘調査報告／三重県埋蔵文化財調査報告412 戸関遺跡発掘調査報告～鈴鹿市徳田町～／上野城跡(第15次)発掘調査報告書／深田古墳群 深田遺跡（第2・3次） 双ツ塚西方遺跡 中島遺跡 双ツ塚遺跡（第3次） 金沢川遺跡(代1・2次)　発掘調査報告
三河昆虫研究会	三河の昆虫
三河武士のやかた家康館	企画展「秘蔵の逸品！地元愛刀家の日本刀展」
瑞浪市教育委員会スポーツ文化課	瑞浪市 中山道保存活用計画
みよし市立歴史民俗資料館	平成27(2015)年度 市内埋蔵文化財発掘調査報告書／平成28(2016)年度 市内埋蔵文化財発掘調査報告書／特別展「西大平藩～藩と大岡家と地域と～」
睦合文化財株式会社	新町西遺跡第1地点／曽屋吹上遺跡 2021-02地点
明治用水土地改良区水のかんきょう学習館	セピア色の明治用水ー明治用水歴史勉強会 会報７号ー
本居宣長記念館	ふみの森探訪通信 第42～46号／令和版 本居宣長の不思議／国史跡指定100年・宣長再発見『宣長さがし』／鈴屋学会報 第39号
有限会社吾妻考古学研究所	川崎市宮前区十三菩薩遺跡第16地点／神奈川県藤沢市 稲荷台地遺跡群第38次調査 発掘調査報告書／藤沢稲荷台地遺跡群第40次調査／藤沢市川名御霊神社東やぐら第1次調査／藤沢市稲荷台地遺跡群第37次調査
四日市市立博物館	画で見る四日市港の歩み／常設展「時空街道」
四日市市教育委員会	史跡久留倍官衙遺跡整備事業報告書／史跡久留倍官衙遺跡保存活用計画／中島組鯨船神徳丸船体横幕新調事業報告書
栗東歴史民俗博物館	栗東歴史民俗博物館紀要 第28号／栗東歴史民俗博物館だより Vol.43
立命館大学国際平和ミュージアム	立命館大学国際平和ミュージアムだより Vol.30-1～3号
個人	美しき日本大正昭和の旅展（江戸東京博物館）／企画展示「江戸の旅から鉄道旅行へ」(国立歴史民俗博物館)／地図で読み解く名鉄沿線(三才ブックス)／観光旅行ー大正～昭和初期のツーリズムー(東北歴史博物館)／続・白夜 間質性肺炎との共生 最新医療でつかんだ奇跡の生(大和田道雄)

利用状況

貸出・閲覧資料一覧

資料名
『私の戦争体験1』～『私の戦争体験4』
画像データ「(青年期の内藤魯一肖像)」
画像データ「三河知立名勝三弘法旧跡絵はがき」
『住宅地図 刈谷市(知立市)』 ※閲覧
『全航空住宅地図帳 知立市区版』 ※閲覧
画像データ「(銀座通り)」
画像データ「(銀座通り商店街)」
画像データ「(知立銀座通り～本町)」
画像データ「(中町交差点)」
画像データ「(知立まつり〈本祭・山車5輌揃い〉)」
画像データ「(知立まつり〈本祭・山町山車〉)」
画像データ　歌川広重「東海道五十三次之内池鯉鮒　首夏馬市」
画像データ「三河新知立駅の全景」(『三河知立名勝三弘法旧跡絵はがき』より)
画像データ「(旧・新知立駅から見た北側の繁華街)」
『知立町住宅明細図』 ※閲覧
「秋気相増候得共」(寄託・内藤魯一関係文書) ※閲覧
燕子花図屏風(複製)
長線(複製)

月別来館者数

月	来館者数(人)	開館日数(日)	一日あたりの平均来館者数(人)
4月	1,197	25	47.9
5月	1,176	25	47.0
6月	883	25	35.3
7月	1,222	25	48.9
8月	1,479	25	59.2
9月	990	24	41.3
10月	1,388	23	60.3
11月	1,042	17	61.3
12月	1,191	23	51.8
1月	1,686	24	70.3
2月	3,627	20	181.4
3月	3,025	23	131.5
合計	18,906	279	67.8

文化財保護事業概要

文化財保護事業

文化財調査

＜知立の松並木遺伝子解析調査＞

旧東海道沿いに植えられた知立の松並木の現状を把握し、天然記念物の価値を維持しながら将来にわたって保存していくための基礎資料の収集を目的として、委託により調査を実施しました。

調 査 者　　愛知教育大学　渡邊幹男教授
調査内容　　①生育状況調査
②遺伝子解析調査
知立の松並木の遺伝的多様性や特性を明らかにするため、アロザイム酵素多型解析を実施。



文化財保護

＜文化財管理委託業務＞

知立松並木保存委託、文化財保存用地管理委託（荒新切遺跡・丸山古墳・牛田城跡・八橋古城跡・業平塚）を実施しました。

＜文化財防火訓練＞

第 69 回文化財防火デー消防訓練を下記のとおり実施しました。
日時　令和 5 年 1 月 27 日（金）午前 10 時
場所　遍照院境内



＜文化財事業補助金＞

下記の文化財保存修理事業に補助を行いました。
・西町祭蔵建設事業（新築）

下記の無形民俗文化財保存伝承活動事業に補助を行いました。
・知立からくり保存会伝承活動事業
・知立山車文楽保存伝承活動事業
・神楽保存伝承活動事業
・知立山車連合保存会伝承活動事業
・義太夫後継者育成事業

埋蔵文化財発掘事業

試掘・確認

○確認調査

下記の遺跡について、埋蔵文化財の確認調査を実施しました。

＜天白遺跡＞

調 査 地　知立市来迎寺町天白

調査理由　開発行為に伴う確認調査

期　　間　令和 4 年 11 月 15 日（火）、17 日（木）、18 日（金）、22 日（火）

調査方法　調査は市教育委員会が行い、7 か所の試掘溝（トレンチ）を掘削しました。図面や写真撮影等の記録をとり、調査後は現況に復しました。

調査結果　試掘溝はそれぞれ 2m×2m の範囲で掘削を行いました。溝や土坑の遺構が検出されましたが、詳細は不明です。遺物は土師器片、瓦片、陶器片、江戸時代の古銭等が見つかりました。





＜西中貝塚＞

調 査 地　知立市西中町永崎

調査理由　全容解明のための確認調査

期　　間　令和 5 年 2 月 7 日（火）～2 月 9 日（木）

調査方法　調査は市教育委員会が行い、バックホーにより 5 か所の試掘溝（トレンチ）を掘削しました。図面や写真撮影等の記録をとり、調査後は現況に復しました。

調査結果　西中貝塚は大正 15 年頃に、字永崎の台地南端部を削って西中神明社への参道を敷設する工事により発見されたといいます。また、当該地は長照寺の旧境内でもありました。

今回の調査では貝塚そのものについては確認できませんでしたが、西中神明社参道側の斜面から貝殻が見つかりました。また、ピットや竪穴建物跡と思われる遺構、大量の石の剥片、弥生時代中期の土器片、中世の土器片等が出土しました。また、長照寺の旧境内に関係すると思われる柱跡の遺構や、瓦、陶器片等も見つかりました。





市史編さん事業概要

教育・普及活動

市史だより刊行

『市史だより 第 13 号』（全戸配布、HP にて PDF データ公開）

発行：令和 5 年 5 月 1 日

内容：【部会だより】　「知立市の近現代を知る」近代・現代部会長 土屋武志氏

「戦後知立市の町内会」近代・現代部会 調査協力員 久保正明氏

【事務局だより】「来迎寺城跡の再検討」当館学芸員 中川貴皓

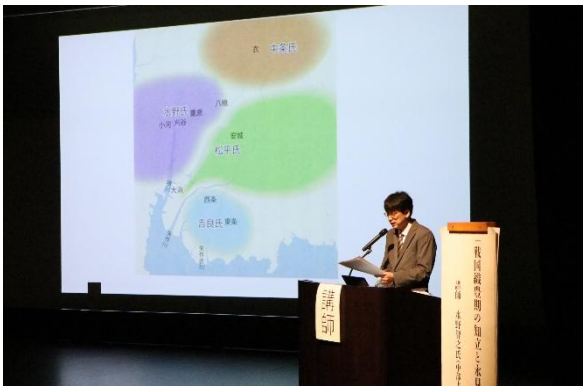
【刊行物のご案内】

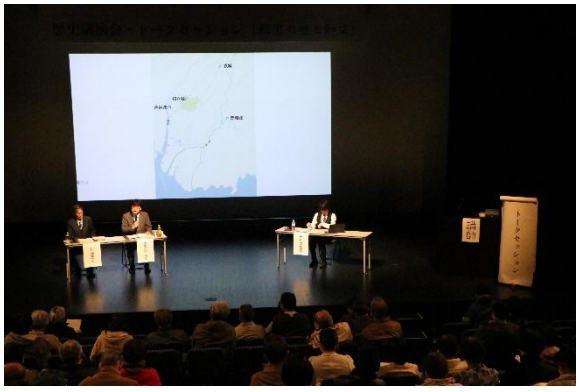
歴史講演会・トークセッション「戦国の世と知立」

大河ドラマ「どうする家康」の放送によって、三河地域でも大変な盛り上がりをみせました。

当市においても、近年の新編知立市史編さん事業によって飛躍的に進んだ調査研究の成果から、その調査研究を担った講師陣が新たな知立の戦国史像をわかりやすくご紹介する講演会を実施しました。

- **日程**　令和 5 年 3 月 18 日（土）
- **場所**　パティオ池鯉鮒（知立市文化会館）花しょうぶホール
- **内容**　基調講演「戦国織豊期の知立と永見氏・徳川氏」
  講師：水野智之氏（中部大学教授）
  個別報告「発掘調査からみた市内の中世遺跡」
  講師：杉浦茂氏（知立市文化財保護委員長）
  個別報告「城・街道・集落からみる町場“ちりゅう”の形成過程」
  講師：中川貴皓(知立市歴史民俗資料館学芸員)
  トークセッション「知立の戦国史研究の新展開と魅力」
  パネリスト：水野智之氏、杉浦茂氏
  コーディネーター：中川貴皓
- **入場者**　150 名





条例・規則

知立市歴史民俗資料館条例

昭和 62 年 9 月 30 日
条例第 17 号

改正　平成 19 年 10 月 1 日条例第 20 号

（趣旨）

第１条　この条例は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の２の規定に基づき、知立市歴史民俗資料館（以下「資料館」という。）の設置及び管理について、必要な事項を定めるものとする。

（設置及び名称）

第２条　郷土の考古、歴史、民俗等に関する資料の保存と活用を図り、地方文化の発展に寄与するため資料館を設置する。

２　資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称　知立市歴史民俗資料館　　位置　知立市南新地二丁目３番地３

（管理）

第３条　資料館の管理は、知立市教育委員会（以下「委員会」という。）が行う。

（職員）

第４条　資料館に館長及び必要な職員を置く。

（入館料）

第５条　資料館の入館料は、無料とする。

（委任）

第６条　この条例に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が別に定める。

（附則　省略）

知立市歴史民俗資料館管理規則

昭和 62 年 9 月 30 日
教育委員会規則第 4 号

改正　平成 4 年 3 月 25 日教委規則第 3 号　　平成 6 年 3 月 24 日教委規則第 5 号
　　平成 10 年 3 月 24 日教委規則第 6 号　　平成 11 年 8 月 25 日教委規則第 4 号
　　平成 23 年 6 月 24 日教委規則第 2 号　　平成 24 年 5 月 24 日教委規則第 6 号

（趣旨）

第１条　この規則は、知立市歴史民俗資料館条例（昭和 62 年知立市条例第 17 号）第 6 条の規定に基づき、知立市歴史民俗資料館（以下「資料館」という。）の管理及び運営に関し、必要な事項を定める。

（事業）

第２条　資料館は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

（１）郷土の考古、歴史、民俗等に関する資料（以下「資料」という。）の収集保存及び展示に関すること。

（２）資料に関する調査研究に関すること。

（３）資料に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。

（４）その他知立市教育委員会（以下「委員会」という。）が必要と認めた事業を行うこと。

（職員）

第３条　資料館に館長、館長補佐、係長、担当係長、専門員、学芸員及びその他の職員を置くことができる。

（職務）

第４条　館長は、上司の命を受けて資料館の管理及び運営の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

２　館長補佐は、上司が命ずる事務を処理し、館長を補佐する。

３　係長は、上司の命を受け、係に属する事務を処理し、所属職員（担当係長を含む。）を指揮監督する。

４　担当係長、専門員及びその他の職員は、上司の命を受け、あらかじめ指定された事務又は業務を処理する。

（開館時間）

第５条　資料館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。

２　前項の規定にかかわらず委員会が必要と認めたときは、これを変更することができる。

（休館日）

第６条　資料館の休館日は、次のとおりとする。ただし、委員会が必要と認めたときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

（１）　毎週月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときを除く。）

（２）　1 月 1 日から 1 月 3 日まで及び 12 月 29 日から 12 月 31 日まで

（３）　館内整理日（毎月第 4 金曜日。ただし、その日が休日に当たるときは、その前日）

（４）　特別整理期間（毎年 1 回委員会が定めた 10 日以内の期間）

（入館制限）

第７条　委員会は、次に該当する場合は、施設等の利用を許可しない。

（１）　入館者に迷惑をかけ、又は資料及び資料館の施設、附属設備等を損傷するおそれがあると認めたとき。

（２）　公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めたとき。

（３）　専ら営利を目的とする行為を行うとき。

（４）　その他管理上支障があると認めるとき。

（弁償の義務）

第８条　故意又は過失により資料館資料をき損した者は、相当の代価をもって弁償しなければならない。

（資料の利用）

第９条　学術調査、研究等のため閲覧、撮影、模写等で資料を直接利用しようとするときは、館長の許可を受けなければならない。

（資料の収集）

第 10 条　資料の収集は、購入、寄贈、寄託及び借用とする。

（資料の寄贈）

第 11 条　館長は、寄贈の申出があったときは、適当と認めるものについて資料寄贈申出書（様式第１）により受納することができる。

（資料の寄託）

第 12 条　一般の公開に供する目的をもって資料館資料を寄託しようとする者は、資料寄託申出書（様式第２）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

２　寄託に要する費用は、寄託者の負担とする。ただし、資料館から寄託の申し込みをしたときは、この限りではない。

３　寄託された資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還する。

（借用の手続）

第 13 条　資料館が資料を借用するときは、あらかじめ所有者又は管理者の承諾を得たうえ資料借用書（様式第３）を交付する。

（免責）

第 14 条　資料館は、寄託及び借用資料が天災その他避けがたい理由により生じた損失については、その責任を負わないものとする。ただし、委員会が必要と認めるときは、この限りではない。

（委任）

第 15 条　この規則に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が定める。

（附則及び様式　省略）

知立市文化芸術基本条例

平成 30 年 3 月 26 日条例第 19 号

改正　平成 31 年 3 月 20 日条例第 18 号

私たちのまち知立市は、いにしえからの豊かな歴史と文化を築き育む風土を大切に受け継いできました。

在原業平や松尾芭蕉が歌に詠み、尾形光琳が描いた燕子花図屏風で知られる八橋のかきつばた。歌川広重が描いた馬市の名残を残す東海道の松並木。明治神宮から御下賜された知立公園の花しょうぶ。そして、ユネスコ無形文化遺産に登録された知立祭りの山車文楽とからくり。これらは知立市の宝であり、先人たちが大切に守り育ててきた文化芸術活動のたまものです。

これら受け継がれてきた文化芸術と、新たに生まれる文化芸術が混ざり合い、私たちのまちは形作られています。

文化芸術を自由に創造し、享受することは、人々の生活に楽しみや潤い、精神的な豊かさや活力をもたらすとともに、人々をつなげ、連携させる力があります。この文化芸術の持つ力は、産業、観光、教育、福祉の発展、コミュニティづくり、多文化共生の促進など幅広い分野において重要な役割を担うものであり、住みよく活力あるまちづくりのためになくてはならないものです。

私たちは、文化芸術の価値を認識し、様々な文化芸術を受け継ぎ、発展させるとともに、新たな文化芸術の創造と普及を総合的かつ計画的に進めることにより、一人ひとりが文化芸術とともに生きる豊かな地域社会の形成を目指し、ここに条例を制定します。

（目的）

第１条　この条例は、文化芸術に関する施策に関し、その基本理念を定め、並びに市民、文化芸術団体、学校及び事業者（以下「市民等」という。）並びに市の役割を明らかにするとともに、文化芸術に関する施策の基本となる事項を定めることにより、文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、もって心豊かな市民生活と活力ある地域社会の実現に寄与することを目的とする。

（定義）

第２条　この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

（１）　文化芸術　文化芸術基本法（平成13年法律第148号。以下「法」という。）第８条から第13条までに規定する振興その他の施策の対象となる文化芸術その他これらに類するものをいう。

（２）　市民　次に掲げる者をいう。

ア　市内に住所を有する者

イ　市内の事業所等に勤務する個人

ウ　市内の学校に在学する個人

エ　市内において、文化芸術に関する創造的活動、文化芸術を支援する活動その他の文化芸術に関する活動（以下「文化芸術活動」という。）を行う個人

（３）　文化芸術団体　市内において、文化芸術活動を行う法人その他の団体及びその連合体をいう。

（４）　学校　市内の学校（学校教育法（昭和22年法律第26号）第１条に規定する学校その他学校教育に類する教育を行う教育施設をいう。）をいう。

（５）　事業者　市内に事業所等を有する法人その他の団体及び個人をいう。

（６）　多文化共生　国籍、民族等の異なる人々が、互いの文化の違いを認め合い、地域社会の構成員と

して共に生きていくことをいう。

（基本理念）

第３条　文化芸術に関する施策の推進に当たっては、市民等の自主性及び創造性が十分に尊重され、市民等による多様な文化芸術活動が理解され、及び促進されるよう配慮されなければならない。

２　文化芸術に関する施策の推進に当たっては、誰もが文化芸術を創造し、誰もが享受する、そのことが人の生まれながらの権利であることを踏まえ、全ての市民がその年齢、障害の有無、経済的な状況、国籍、民族等にかかわらず等しく、文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができるような環境の整備が図られなければならない。

３　文化芸術に関する施策の推進に当たっては、歴史や風土の中で培われ、先人から引き継がれてきた文化芸術が保存され、及び記録され、並びに将来に継承されるよう配慮されなければならない。

４　文化芸術に関する施策の推進に当たっては、市の内外に広く文化芸術が発信されるとともに、文化芸術を通じて交流が促進されるよう配慮されなければならない。

５　文化芸術に関する施策の推進に当たっては、文化芸術に関する教育の重要性に鑑み、学校、文化芸術団体、家庭及び地域における活動の相互の連携が図られるよう配慮されなければならない。

６　文化芸術に関する施策の推進に当たっては、広く市民等の意見が反映されるよう十分配慮されなければならない。

７　文化芸術に関する施策の推進に当たっては、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することが重要であることに鑑み、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、観光、まちづくり、福祉、教育、産業、多文化共生その他の各関連分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならない。

（市の役割）

第４条　市は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、市の歴史、風土等地域の特性を踏まえて文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するものとする。

２　市は、文化芸術に関する施策を推進するに当たり、必要に応じ、観光、まちづくり、福祉、教育、産業、多文化共生その他の施策と連携を図るものとする。

３　市は、文化芸術に関する施策を推進するとともに、遊びや憩いの機会が創出されるよう努めるものとする。

４　市は、文化芸術に関し、調査、研究、記録、保存及び発信に努めるものとする。

（市民の役割）

第５条　市民は、基本理念にのっとり、文化芸術の果たす役割と自らがその担い手であることを認識するとともに、主体的にその活力と創意を生かして、広く文化芸術の創造及び発展に努めるものとする。

（文化芸術団体の役割）

第６条　文化芸術団体は、基本理念にのっとり、自主的かつ創造的に文化芸術活動を推進するとともに、文化芸術活動に参加する市民との協働により、文化芸術活動の充実に資するよう努めるものとする。

（学校の役割）

第７条　学校は、基本理念にのっとり、幼児、児童、生徒等が文化芸術活動を体験し、及び文化芸術に関する作品に触れる機会の充実を図り、並びに文化芸術を担う人材の育成、地域の文化芸術活動の活性化等に努めることにより、文化芸術の振興に積極的な役割を果たすものとする。

（事業者の役割）

第８条　事業者は、基本理念にのっとり、地域社会を構成する一員として、その保有する資源を活用し、地域の文化芸術活動の活性化等に努めることにより、文化芸術の振興に積極的な役割を果たすものとする。

（基本計画）

第９条　教育委員会は、法第７条の２第１項の規定に基づき、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本的な計画（以下「基本計画」という。）を定めるものとする。

（子どもの文化芸術活動への参加等の機会の確保）

第10条　市及び市民等は、次代を担う子どもの豊かな人間性を育むため、子どもが優れた文化芸術に触れ、及び創造的な文化芸術活動に参加する機会の確保に必要な取組を行うよう努めるものとする。

（高齢者、障害者等に対する文化芸術に関する施策の充実）

第11条　市及び市民等は、高齢者、障害者等が文化芸術に親しむとともに、自主的な文化芸術活動を行うことができるよう、必要な取組を行うよう努めるものとする。

（伝統的な文化芸術の保存等）

第12条　市及び市民等は、伝統的な文化芸術の保存及び継承並びに発展に努めるものとする。

（国際文化交流の推進等）

第13条　市及び市民等は、文化芸術活動を通じて、国際交流の推進に努めるものとする。

２　市及び市民等は、文化芸術活動を通じて、多文化共生の推進に努めるものとする。

（人材の育成）

第14条　市は、文化芸術に関する創造的活動を行う者、文化芸術活動を支援する者その他の文化芸術を担う者の育成に努めるものとする。

（文化芸術に関する環境の整備と連携の強化）

第15条　市は、文化芸術活動が活発に行われるような環境の整備を図るものとする。

２　市は、文化芸術に関し、市民等の連携の強化及び促進に資する施策の実施に努めるものとする。

（財政上の措置）

第16条　市は、文化芸術に関する施策を実施するため、必要な財政上の措置を講ずるよう努めるものとする。

（顕彰）

第17条　市は、文化芸術の振興に寄与した者の顕彰に努めるものとする。

（知立市文化芸術推進会議）

第18条　教育委員会の諮問に応じ、基本計画その他の文化芸術の推進に関する重要事項を調査審議させるため、法第37条の規定に基づき、知立市文化芸術推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

２　推進会議は、委員15人以内で組織する。

３　委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

（１）　学識経験を有する者

（２）　文化芸術団体を代表する者

（３）　福祉又は学校教育の関係者

（４）　市民

（５）　その他教育委員会が必要と認める者

４　委員の任期は、２年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期

間とする。

5　委員は、再任を妨げない。

6　前各項に定めるもののほか、推進会議の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

（委任）

第19条　この条例に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附　則

この条例は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成31年３月20日条例第18号）

（施行期日）

1　この条例は、平成31年４月１日から施行する。

（知立市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正）

2　知立市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和45年知立市条例第34号）の一部を次のように改正する。

別表中「福祉体育館運営審議会委員」を「福祉体育館運営審議会委員　文化芸術推進会議委員」に改める。

研究報告

知立神社所蔵の茶釜について

近藤　真規

知立神社に大きな青銅製の茶釜が所蔵されている。本資料の来歴等について調べてみたので以下にまとめておきたい。

茶釜の概要

釜は青銅製で、胴部中央に鍔（羽）をもち、口縁部がすぼまる形態のいわゆる茶釜である。寸法は、高さ約 53cm、幅約 75cm、口縁部径 28.7cm を測り、堂々たるものである。重厚な木製の蓋が付く。釜の肩部に獅子頭の装飾が一対あり、それぞれ環を持つ。そして同じく肩部に凸線の文字で「知立神社」「清浄」「安政五年戊午四月」とある。これにより安政 5 年（1858）に知立神社のために造られた特注品であることがわかる。

鍔のやや上部あたりに楷書で文字が刻まれている。「発起人　問屋役人」として「善九郎」以下 24 人の名に続き、「取持　馬持中　歩行中」とある。さらに「東叡山御末　別當惣持寺　現住法印圓田代　社家　永井左京仲利代」とあり、最後に「大工　岡崎住　安藤金右エ門　真形作」と工人の名がみえる。「安藤金右エ門真形」は岡崎の鋳物師である。崇福寺にある文化 12 年銘の梵鐘、妙源寺の文政 2 年銘の梵鐘にも同名の銘が刻されている。江戸後期における岡崎住の鋳物師として有名であったようである。1）



知立神社所蔵の茶釜 1

「知立神社」「清浄」の文字がある。



知立神社所蔵の茶釜 2

「安政五年戊午四月」の文字がある。





茶釜胴部の文字

発起人
　問屋役人
　　善九郎／太兵衛／重兵衛／庄七／七之助／茂七／源治／多兵衛／
　　竹治／平五郎／武兵衛／常右エ門／又兵衛／佐十／勝蔵／代吉／
　　治兵衛／弥兵衛／新蔵／金右エ門／八十七／種吉／又吾／倉吉
　取持　馬持中／歩行中
東叡山御末
　別當惣持寺
　　現住法印圓田代
　社家
　　永井左京仲利代

　　岡嵜住
　大工　安藤金右エ門
　　真形作

「亮円日記」に記された接待茶釜

知立神社の別当総持寺の僧侶であった亮円が嘉永 2 年（1849）から明治元年（1868）にかけて書き綴った日記（「亮円日記」）が同神社に残されている。亮円は尾張国知多郡山田村正法寺より弘化元年（1844）に総持寺に転住となった僧侶で、安政 2 年（1855）3 月に隠居し円田に住職を譲ったが、日記は書き綴られ、文久 3 年（1863）の再住以後にも記述は及んでいる。この日記の記述は、嘉永 2 年（1849）4 月の寺院焼失を契機に始まる。

さて、その日記の冒頭には、嘉永 2 年（1849）4 月朔日夜に総持寺の庫裏から出火し、本堂・座敷・庫裡が焼失、併せて記録類・書物・什物・実印・装束着類・諸道具など残らず焼失したことが書かれている。住職亮円が住職となって 6 年目にあたり、御本地堂の座敷向は内外の造作が出来上がり、戸、障子、畳を新調したばかりであった。焼失後は了運寺に仮住まいすることになった。この火災により焼失した品々として二俣竹や大般若経等の神宝等があり、その中に「唐金大茶釜　壱ツ　但祭事之節相用申候」とある

(「嘉永二酉年四月ヨリ六月迄　諸用録一」)。総持寺に祭事に用いる大茶釜があったのである。

同じく亮円日記の安政 4 年（1857）10 月に以下の記述がある。

「一　去嘉永弐酉年四月朔日　寺院焼失之節、□焼亡候　本社祭礼之節、接待唐銅茶釜銘如左

文化十一年甲戌四月吉日　願主　池鯉鮒山町講中

古川半十　久世斉兵衛　服部熊五良　古川藤三良　渡邊大八

岡本善右エ門　高木庄右エ門　八百屋勘助　半田屋佐右エ門

服部彌吉　石川栖八　加藤又七　古川半左エ門

堤村　新實勝五良　中葉半九良　〆十五人」（下線部筆者、以下同じ）

これによると、嘉永 2 年 4 月の総持寺焼失の際に失った「接待唐銅茶釜」の銘には、文化 11 年（1814）4 月、池鯉鮒山町講中　古川半十以下 15 名を願主としてあった。このとき寄進されたものであったらしい。

次に、日記の安政 5 年（1858）2 月に接待茶釜の記事がある。

「十九日問屋帳附善九郎来ル。右接待茶釜今般唐銅ニ而出来ニ相成候ニ付、銘之事伺ニ来萬端先住亮円より申聞遣し候事。」

続いて日記の 3 月に次の記述がある。

「一　五日問屋場より接待釜出来候ニ付、明六日御別當所江持参仕候旨届来候事。

一　六日雨天ニ付延引七日問屋場下役大勢附添茶釜持参直ニ本堂江入レル。只受取候而已。庫裡江も入らずに一同引取候事。」

さらに安政 5 年 4 月に別当と両社家の役割などについて領主に届け出た掟書である「別当ならびに両社家勤方先例書」の中に

「一　神宝之御太刀、二俣竹、神輿并御幕、白張烏帽子授待、茶釜等先例之通平常惣持寺江預置之事」

とある。

以上の記録をまとめると以下のとおりである。

惣持寺には祭礼の際に用いられる唐銅(からかね=青銅)の接待茶釜があった。これは文化 11 年(1814)4 月に池鯉鮒山町講中 15 名により寄進されたものであった。しかし、嘉永 2 年（1849）4 月朔日の火事により惜しくも他の宝物ともども焼失してしまった。その後、接待茶釜を再度調達する計画がなされたのであろう。安政 5 年（1858）2 月に問屋帳付の善九郎が接待茶釜の銘の確認のため惣持寺にやってくる。来る 4 月の陽祭（本祭り）に間に合うように準備してきたのである。3 月 5 日ついに出来上がり、7 日に問屋場の下役大勢で惣持寺本堂へ運び込まれた。この復活した「接待茶釜」が本資料の茶釜と同一のものであることは疑う余地はない。そして総持寺の本堂へ納められて御神宝と並び預け置かれていたのである。

茶釜の役割

文化 11 年に池鯉鮒山町講中により寄進され、嘉永 2 年に寺院焼失により失った接待茶釜。この茶釜はその後安政 5 年に問屋役人によって再び寄進されたものであることをみてきた。そもそも接待茶釜とはどのような目的で使われたのであろうか。まず、日記に「但祭事之節相用申候」とあることから祭礼の節に用いられたものであることがうかがわれる。総持寺あるいは知立神社において祭礼の節に接待がどのように行われたかは不明である。社寺等で参詣者に茶を振る舞う茶所（接待所）の存在は全国的によく知られている。江戸時代後期になると一般庶民の旅行や社寺参詣の流行に従い、街道筋の社寺等で茶所が設

けられることも増えていったのであろう。本茶釜もこうした動きの中で二度に渡り寄進され、その役割を果たしていったものと思われる。特に茶釜が再度寄進された幕末安政年間は大地震が日本各地で相次いでおこった。また、黒船以来列国各国が次々に開国をせまり、社会は大きな不安に包まれていた。幕末の動乱期の社会不安を払拭しようとする人々の願いが込められたものかもしれない。

慶応 4 年（1868）3 月、廃仏毀釈の令に基づき惣持寺は無住職となり廃寺を命ぜられた。おそらくはこの茶釜もその役割を終えたのではないだろうか。

本稿をまとめるにあたり、知立神社宮司神山忠憲様をはじめ神職の皆様にご配慮賜った。ここに記してお礼申し上げる。

註

1)　『新編岡崎市史　美術工芸　17』（新編岡崎市史編さん委員会、昭和 59 年）p576

知立市歴史民俗資料館年報　令和４年度

令和５年１２月１日　発行

編集　知立市歴史民俗資料館
　　愛知県知立市南新地二丁目３番地３
発行　知立市教育委員会